

<第31回調査>

2011年12月26日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施しておりましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2011年12月13日(火)13:00～2011年12月20日(火)13:00
※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。
今回の有効回答数は1182件。
※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

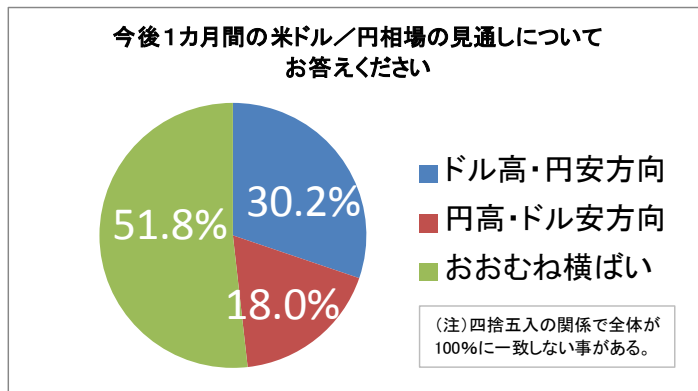
Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第31回調査結果略報：ドル高・円安予想が優勢に転換】

問1：今後1カ月間の米ドル／円相場の見通しについてお答えください

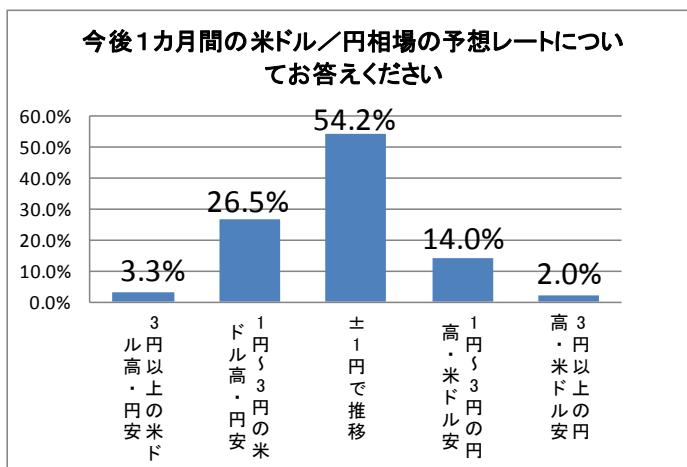
「今後1カ月間のドル円相場見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が30.2%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合が18.0%となった。この結果、「ドル円予想DI」は12.2%ポイントとなり、前回調査で過去最大のマイナスDIとなった▲34.0%ポイントからプラスDIに転換した。調査期間中のドル円相場は77.61円から78.12円という狭いレンジで推移したが、欧州債務危機の深刻化を受けたドル需要の高まりなどから、株安などのリスク回避時にはドル高・円安に振れる場面も見られた。後出の問3や問4の結果を見ると、クロス円については下落方向の予想が優勢である事から、FX投資家は今後1カ月について円安傾向を予想している訳ではなく、リスク回避のドル高継続を予想しているようだ。

※過去のドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル／円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間のドル円相場の予想レート」については、「±1円で推移」が54.2%と最も多く、次いで「1円～3円の米ドル高・円安」が26.5%、「1円～3円の円高・米ドル安」が14.0%、「3円以上の米ドル高・円安」が3.3%、「3円以上の円高・米ドル安」が2.0%の順になった。ヒストグラムの形状は、ドル高・円安方向にやや傾いており、問1の結果と整合的と言える。もっとも、「±1円で推移」と答えた割合が圧倒的に多く、FX投資家は緩やかなドル高・円安を想定している事が伺える。ドル強気派の中でも、ドル円が80円を超えて上昇するようなドル高・円安局面を予想する向きはごく少数のようだ。



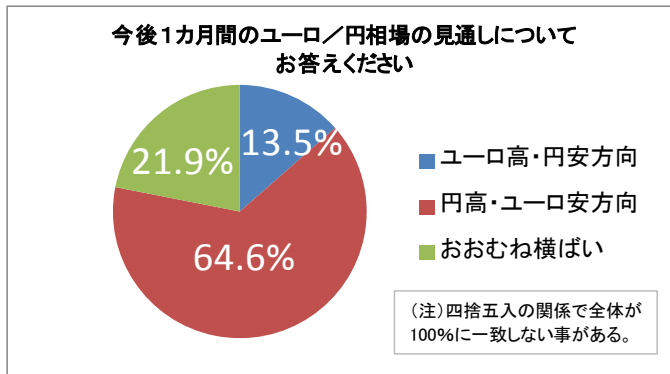
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

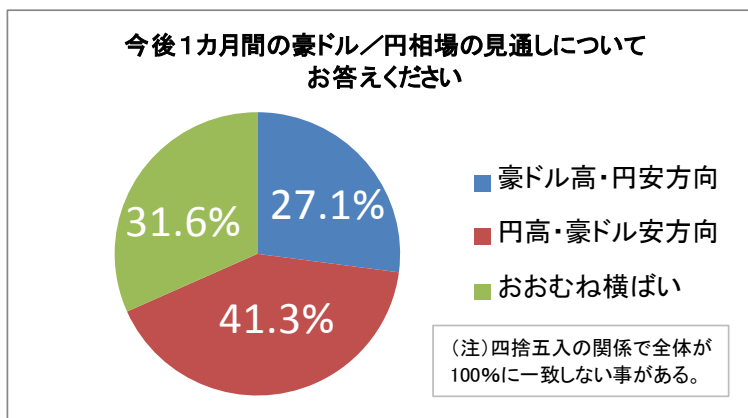
「今後1カ月間のユーロ円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が13.5%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が64.6%となった。この結果、「ユーロ円予想DI」は▲51.1%ポイントとなり、前回調査で記録した過去最大のマイナスDI(▲59.5%ポイント)からはマイナス幅が縮小したものの、8カ月連続でのユーロ弱気予想となった。調査期間中のユーロ円相場はユーロ圏諸国の一斉格下げが懸念される中、一時101.03円まで下落するなど弱含みの展開が目立った。長引く欧州債務問題を背景に、FX投資家の予想はユーロ弱気・円強気に傾いたまま年を超える事になりそうだ。

※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が27.1%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合が41.3%となった。この結果「豪ドル円予想DI」は▲14.2%ポイントとなり、調査開始以来最大のマイナス(▲18.6%)を記録した前回調査からは小幅に改善したものの、豪ドル円予想DIが2カ月連続でマイナスを記録したのは初めてだ。調査期間中の豪ドル/円相場は、欧州債務危機の深刻化を懸念した世界的な株安傾向を背景に一時76円台に下落するなど軟調推移となった。12月6日に豪準備銀行(RBA)が追加利下げに踏み切り、その後も追加利下げ観測がくすぶり続けた事もFX投資家心理を圧迫したものと考えられる。※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

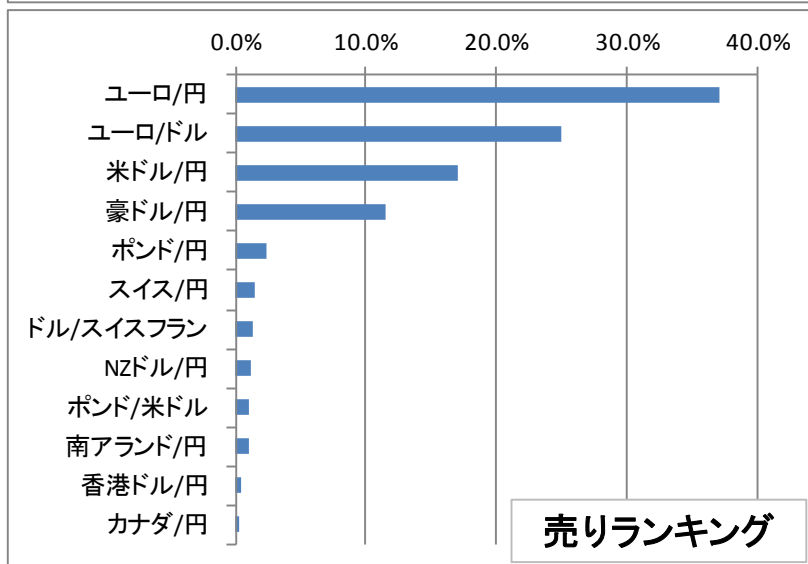
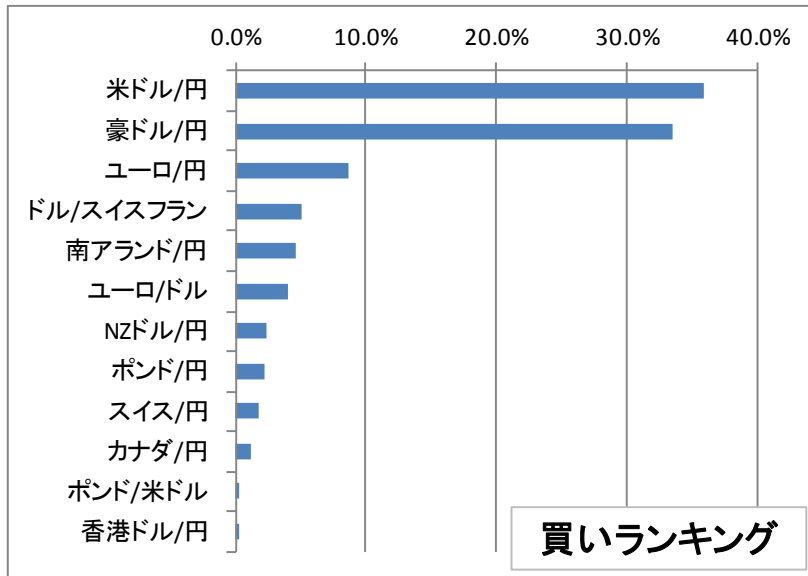


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

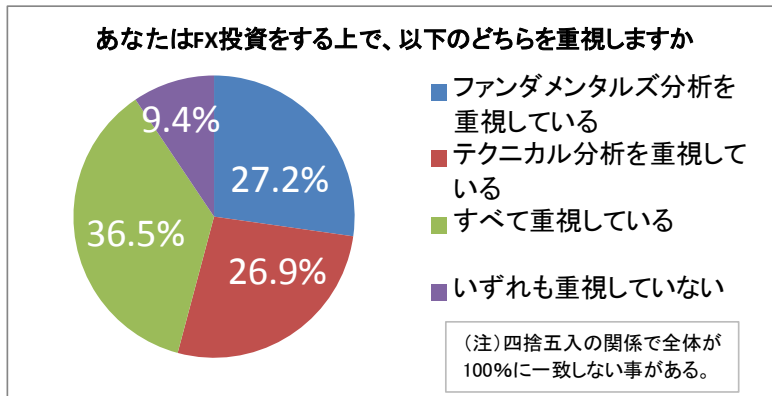
「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位ドル円(35.9%)、2位豪ドル円(33.5%)、以下大きく離れて3位ユーロ円(8.7%)、4位ドルスイス(5.1%)、5位は南アランド/円(4.6%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位ユーロ円(37.1%)、2位ユーロドル(25.0%)、3位ドル円(17.0%)、4位豪ドル円(11.5%)、5位ポンド円(2.5%)となった。「買い」で注目の通貨ペアについては、ドル円が、1位に返り咲いた。これは、今年3月に行われたG7協調円売り介入や、米国の早期引き締め観測が台頭した事を受けてドル円が85.53円の高値を付けた今年4月の第23回調査以来8カ月ぶりとなる。一方、「売り」で注目の通貨ペアはユーロ円とユーロドルがワン・ツーフイニッシュを決めた。「買い」ランキングの低さと合わせて、ユーロ弱気のFX投資家がいかに多いかを物語っている。ユーロに関しては、FX投資家の代表的投資スタイルとされる「逆張りスタンス」は当てはまらないようだ。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

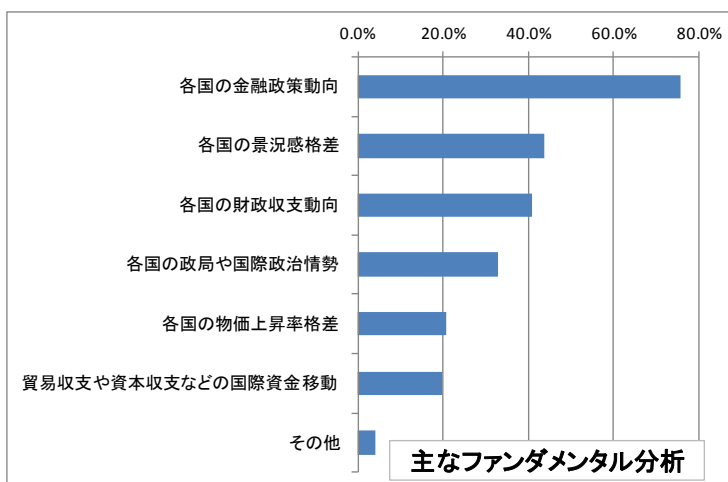
問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視する」と答えた割合が27.2%であったのに対し「テクニカル分析を重視する」と答えた割合が26.9%という結果となった。また「すべて重視している」と答えた割合が36.5%と引き続き最も多く、「いずれも重視していない」は9.4%であった。調査開始以来、FX投資家の分析手法の好みに顕著な偏りは見られない。「ファンダメンタルズ重視派」と「テクニカル重視派」、「両方重視派」が比較的バランスよく混在していると言えるだろう。ただ、「いずれも重視しない」FX投資家が、何をたよりに取引しているのかについては、やや気になるところだ



問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか?

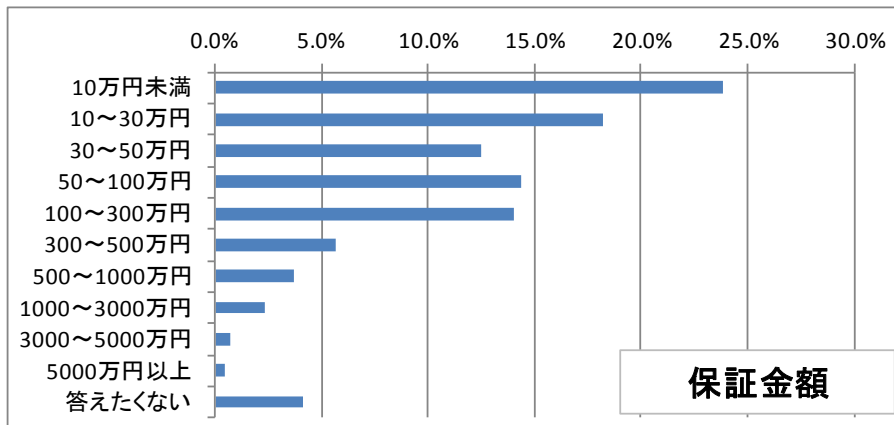
「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場変動要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(75.9%)」と答えた割合が最も多く、「各国の景況感格差(43.9%)」、「各国の財政収支動向(41.0%)」、「各国の政局や国際政治情勢(33.0%)」、「各国の物価上昇率格差(20.6%)」の順に続いた。今回も引き続き「各国の金融政策動向」が他を大きく引き離して7割以上の回答割合を集めており、この傾向は調査開始以来変わらない。一方、「各国の財政収支」は、初めて本質問を行った第9回調査の回答割合が24.5%であり、その後も徐々に回答割合を増やしている。欧州債務問題や米国債務上限引き上げ問題に加え本邦の消費税引き上げ議論など、主要国の財政赤字に対する厳しい視線が、回答割合の増加につながっていると思われる。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

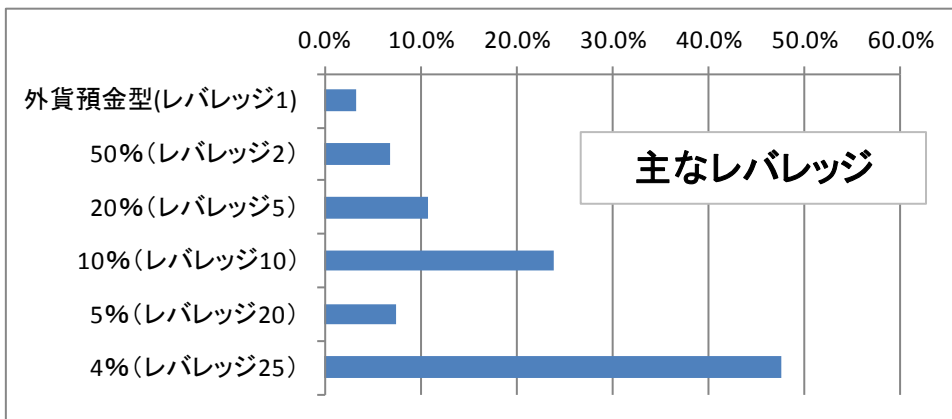
問8: FX取引の際の保証金の額についてお答えください

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が23.9%と最も多く、以下「10～30万円(18.2%)」、「50～100万円(14.4%)」、「100～300万円(14.0%)」と続いた。引き続き、100万円以下の保証金で取引を行うFX投資家の合算割合が69.0%と高く、小額の保証金で取引が可能というFXの特性を生かしている投資家が多いと言える。もともと、本調査を開始した当初の2009年後半には「10万円未満」の保証金で取引するFX投資家の割合は30%を超えていた。その後、2度に渡るレバレッジ規制が導入された事を受けて小額の保証金での取引は徐々に減少している。



問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？

「FX投資の際に主として活用している保証金率(レバレッジ)」について尋ねたところ、「4%(レバレッジ25)」と答えた割合が47.7%と最も多く、「10%(レバレッジ10)」が23.9%、以下「20%(レバレッジ5)」が10.8%、「5%(レバレッジ20)」が7.4%、「50%(レバレッジ2)」が6.9%と続いた。今回調査でも「4%(レバレッジ25)」が半数近くを占めており、8月のレバレッジ規制以降はこの傾向が定着している。規制前に30～50倍で取引していたFX投資家が現行の最大レバレッジである25倍を選択しているためと考えられるが、本邦FX取引のかなりのウェイトを占めるドル円相場の値動きが比較的小さい事も、25倍のレバレッジを選択する一因となっているものと推測される。

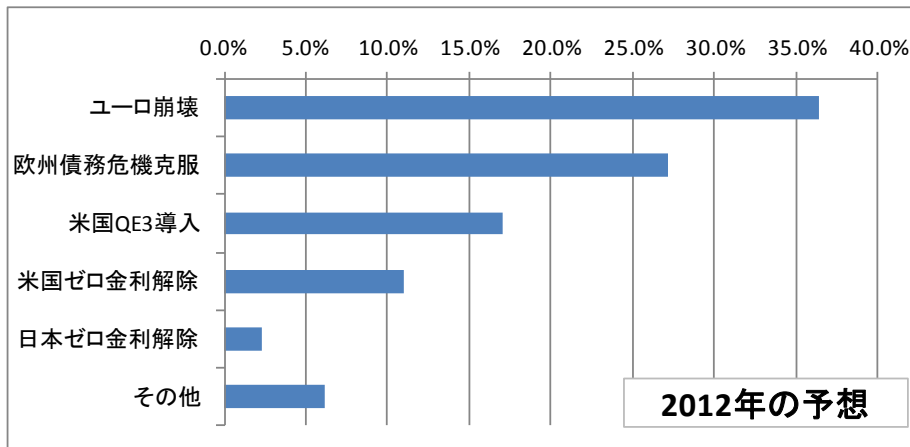


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

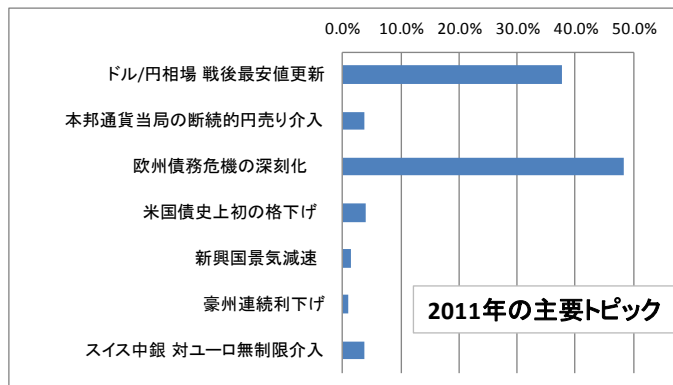
問10: 来年2012年に起きると予想される出来事はどれでしょう(ひとつだけ)
「その他」を選択した方は事柄をコメント欄にご記入ください

今月の特別質問項目として、来年2012年に起きると予想される出来事はどれでしょう(ひとつだけ)と尋ねたところ、「ユーロ崩壊」が36.4%と最も多く、次いで「欧州債務危機克服」が27.2%と、欧州情勢への不安と期待が交錯している様子が見て取れる。3番目に多かった回答は「米国QE3導入(17.1%)」、次いで「米国ゼロ金利解除(11.0%)」と米国金融政策についてもFX投資家の見方が分かれた。なお、「日本のゼロ金利解除」を予想する声はわずか2.3%にとどまった。また、「その他」を選択した方は、事柄をコメント欄にご記入くださいとしたところ、「ユーロ崩壊まで行かなくても参加国の再編がある」との声や「中国バブルの崩壊」を挙げる声が多かった。また、少数意見ながら「日本国債の暴落」を挙げた例もあった。



問11: 2011年を代表する為替市場のトピックとして、最もふさわしいと思われるのはどれでしょうか(ひとつだけ)

今月のもう一つの特別質問項目として、2011年を代表するトピックとして最もふさわしいのはどれでしょうか(ひとつだけ)と尋ねたところ、「欧州債務危機深刻化」が48.3%と最も多く、次いで「ドル/円相場戦後最安値更新」が37.6%と、上位ふたつで9割近い回答割合を集めた。以下大きく離れて「米国債、史上初の格下げ(4.0%)」、「本邦通貨当局の断続的な円売り介入(3.8%)」、「スイス中銀、対ユーロ無制限介入(3.8%)」と続いた。特に、年後半は欧州債務危機の影響で市場が大きく揺れる場面が目立っただけに、「欧州債務危機深刻化」が今年の最大のトピックと言ってよいだろう。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第31回目となりました。調査開始後2年以上が経過し、前月との対比での時系列比較だけでなく、前年同期との比較も可能になってきました。しかしながら、まだ十分な時系列データの蓄積は進んでおりません。このため、現時点では統計分析に深みを持たせるために必要不可欠な長期間に渡る時系列比較を十分に提示することはできていませんが、今後、毎月定点観測で実施する調査結果の蓄積が進むにつれて、DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握も可能になってくることが期待されます。

毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年中央以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

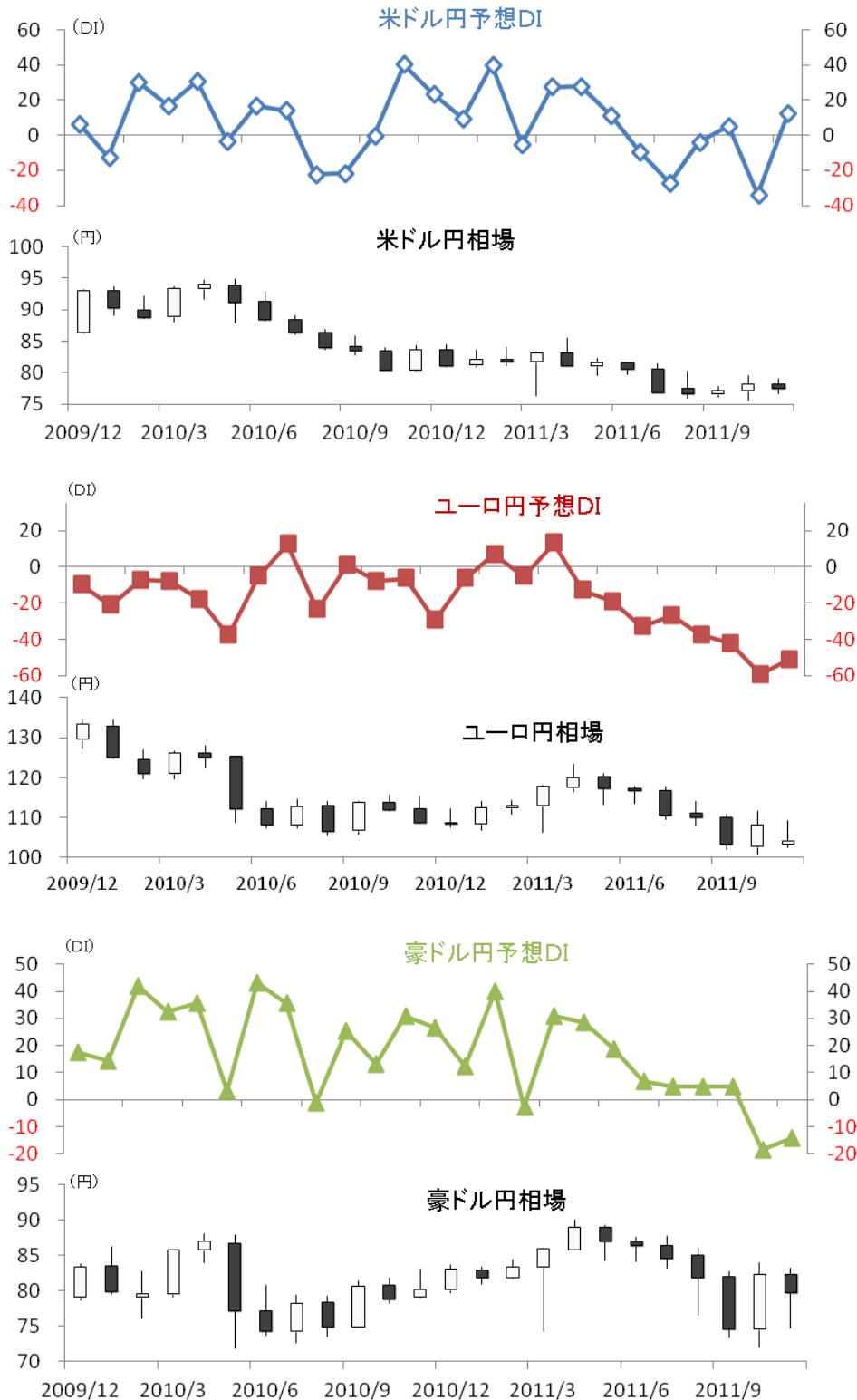
		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2009年	12月	37.6	31.2	6.4	27.8	37.3	-9.5	41.4	24.0	17.4
2010年	1月	28.5	40.9	-12.4	24.6	45.7	-21.1	41.7	27.4	14.3
	2月	49.9	19.6	30.3	31.6	38.7	-7.1	56.9	14.8	42.1
	3月	37.6	20.9	16.7	30.3	38.2	-7.9	50.0	17.4	32.6
	4月	50.5	19.7	30.8	26.1	44.0	-17.9	53.3	17.5	35.8
	5月	33.9	37.2	-3.3	21.4	59.1	-37.7	40.3	37.1	3.2
	6月	35.9	19.1	16.8	32.9	38.0	-5.1	58.7	15.5	43.2
	7月	40.8	26.8	14.0	41.8	29.2	12.6	53.9	18.3	35.6
	8月	26.0	48.5	-22.5	25.2	48.7	-23.5	34.5	35.6	-1.1
	9月	22.3	43.9	-21.6	36.7	35.8	0.9	47.8	22.5	25.3
	10月	37.3	37.7	-0.4	29.3	37.3	-8.0	38.9	25.8	13.1
	11月	57.4	17.0	40.4	28.2	34.6	-6.4	48.0	17.0	31.0
	12月	42.9	19.2	23.7	19.2	48.7	-29.5	44.0	17.4	26.6
2011年	1月	33.0	23.7	9.3	31.8	38.2	-6.4	37.3	24.8	12.5
	2月	53.2	13.0	40.2	33.6	26.6	7.0	54.8	14.8	40.0
	3月	38.7	43.9	-5.2	35.1	40.2	-5.1	37.7	40.4	-2.7
	4月	48.2	20.7	27.5	43.8	30.7	13.1	51.0	20.0	31.0
	5月	44.3	16.3	28.0	29.4	42.3	-12.9	47.7	19.0	28.7
	6月	33.4	22.1	11.3	25.2	44.3	-19.1	41.2	22.6	18.6
	7月	29.4	38.7	-9.3	22.3	55.3	-33.0	36.2	29.4	6.8
	8月	18.1	45.3	-27.2	20.8	47.4	-26.6	36.3	31.3	5.0
	9月	23.9	27.9	-4.0	21.0	58.5	-37.5	36.4	31.7	4.7
	10月	26.3	21.0	5.3	19.4	61.5	-42.1	40.0	35.0	5.0
	11月	14.5	48.5	-34.0	12.1	71.6	-59.5	26.3	44.9	-18.6
	12月	30.2	18.0	12.2	13.5	64.6	-51.1	27.1	41.3	-14.2

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様が生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承いたします。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com